

大学生と農山漁村との連携事例



京都産業大学

担当窓口

京都産業大学 広報部

実施主体名: 未来発信おむすび 静原応援隊

URL

<https://x.com/shizuharaoen>



活動内容

少子高齢化の進む静原地域を元気にするため、学年・学部を越えて集まった学生有志団体。地元目線に立った活性化をモットーに2015年より休耕地を開拓して、野菜やコメを栽培。2017年からまぼろしの京都産大豆：オオツルを静原ブランドに育てる「ソイカルプロジェクト」2019年からは、神社のご神木に巻く、しめ縄用の藁を栽培する「しめなわもち米プロジェクト」に取り組む。また、オオツル大豆、しめなわもち米を用いた商品を開発、販売することで、静原のブランド化を目指す。



きっかけ

大学からほど近い山里である静原に訪れた1人の学生が、自然の豊かさやこの地に残る伝統文化に興味を持ったのが静原との出会い。その後、過疎化や休耕地問題などこの地域にある課題に気づき、学生の力で解決ができないか同志を募り、進めたことだった。大学の授業でもなく、地域からの要請もなく、信念で飛び込んで始めた「大いなるおせっかい」は10年経った今、地域ではなくてはならない、若い力としての役割を担うまでになっている。



展望

地元の人達の望む静原の姿を思い浮かべながら常に活動している。京都市内でありながら、今なお残る豊かな自然や、500年前から引き継がれてきた伝統文化。この「一度失ったら二度と取り戻せないもの」を、今しばらく学生が受け継ぎ、地域出身の若い世代に橋渡しするのが、静原応援隊の役割と考えている。



藁の収穫を終えて



静原神社のしめ縄づくり



オオツル大豆栽培作業